

同窓会会報平成二十一年秋号

改革進む

都立中野工業高等学校

同窓会会長 久保村昭衛

吾が国は現在、米国のサブプライムローン問題に端を発した100年に1度と云われる世界同時不況に直視して居ります。

こうした状況下では将来に亘る経済活動の維持、新たな成長戦略への取組みが最優先です。それには人材力であり若人の育成がこれからの最大の課題です。

専門高校は現在の3年生から5年生に改革し公立の高等学校には授業料を免除して幼稚園から高等専門学校を一つの教育課程の義務教育化等に話題が沢山出て参りました。近い時期に実現するものと思われます。

吾が都立中野工業高等学校の全日制同窓会は 昨年の暮には第10期機械科卒業生である池田弁護士先生による裁判員制度について全校生徒に対して講演して頂き大変良き勉強になりました。続けて、第2回目は第7期卒業生の中村眞一先生より海外協力隊の2年間に

ついてお話を頂きました。そして、生徒先生共一生懸命話を聞いて勉強になった事と思います。又秋には第18期卒業生で現在法政大学生命科学部環境応用化学科教授左巻健男先生が「0からの旅立ち」と題を定め95分位全校生徒に講演します。

この様に同窓会は在校生に対して同窓会の立場で在校生に将来少しでも今後の人性の糧となればと思つて色々と企画して生徒の向上に心がればと思つています。

どうか全同窓生も私共と一体となつて東京都立中野工業高等学校の発展に努力をお願い申し上げます。

中野工業高校の夢を語る

校長 萩原和夫

全日制同窓会には日頃より、久保村会長はじめ皆様に多大な支援をいただき感謝申し上げます。とりわけ、部活動費の補助、文化祭への展示、そしてOBの方の講演会では生徒の健全育成に寄与しています。

学校は4月に新入生176名を迎え、元気に頑張っています。3

年生は厳しい就職状況の中、夏季休業中に進路相談や就職試験対策を実施しました。また、進路指導室を移転して、これまで以上に充実した進路指導ができるようになりました。9月に新型インフルエンザの流行が伝えられ、本校でも万全体制をとっていききたいと思

ます。特に、10月2日(金)に体育祭、10月31日・11月1日に中工祭が開催されますので、ご来校の機会がありましたら、よろしくお願いいたします。

さて、昨年度の同窓会報に拙文を掲載していただきました。その後、状況を踏まえて、もう少し具体的な夢を語りたいと思います。まず、なんとしても校舎改築の目的を立てていただきたい。本年2月に東京都財務局(都の予算担当)

より、施設の改築についての年次計画が示され、改築の遡上に本校が載ることになりました。現在、東京都議会や東京都教育委員会等で検討していると聞いています。これには久保村同窓会長に多大な尽力をいただいているところです。本校として、改築に対応するため、学校の将来像の策定、とりわけ、総合技術科の改善と時代のニーズにあつた教育課程の編成が求められます。改築計画が実現した折

には改築委員会を立ち上げたいと考えています。今後ともよろしくご支援を賜りたいと思います。

事務局よりのお願い

同窓会員の皆様方には益々ご健勝の事とお喜び申し上げます。

同窓会の活動の様子や、同窓生同志の情報交換の場として、本会報を発行しております。

同窓会活動資金として同窓会「年会費二千元」の納入をお願い致しており、毎年多くの方々より賛同を戴いておりますがまだまだ少数です。約九千六百名の同窓生の通信費、母校の部活動等の支援に資金が必要です。諸般の事情をご賢察の上、同窓会会員各位におかれましては、各種お知らせの際同封の振込み票にて「年会費二千元」の納入と誠に勝手ながらご寄附を賜りますようお願い申し上げます。

又、住所移転及び同期・クラスに関係なく同窓生の所在がお分かりの方は事務局までご一報下さる様お願い致します。

問合せ先事務局

350-1304 狭山市狭山4丁2-25-12

田中 正一

Tel: 04-2958-4698

中野工業高校の現状及び課題

副校長 山田一郎

平成21年4月に細田副校長の後任として着任した山田と申します。前任校は小金井工業高校の定時制でしたから工業高校を2校経験することになります。本校に来て驚いたのは「女子生徒」が多い、ということ。印象だけで言えば普通科高校と変わらない賑やかさで、元氣よく校内を歩き回っていると思えました。これだけ女子生徒が多いのはやはり本校に「食品工業（類型）」があるからなのでしょう。都立の工業高校16校の中でも本校にしかない類型（科）ですからしても本校の大きな特徴と言えると思います。

さて、本校の現状及び課題についてですが、一番大きな課題は校地の狭隘化と建物及び設備の老朽化にこの後どのように取り組んでいくかということでしょう。このことは建物を改修（改築）するだけで解消できない問題です。何故かと言うと「新学習指導要領」が平成25年度から全面実施されるからで、この「新学習指導要領」にどのような対応をするかで建物

の改修がどのような形になるかも変わっていくからです。「新学習指導要領」では工業科のカリキュラム自体は大きく変わることはありませんが、普通科のカリキュラムはかなり変化します。そのことで学校全体のカリキュラム編成も変化しますし、類型（科）を変化させるとしたら、（つまり本校が変化するとしたら）平成25年の「新学習指導要領」の実施に合わせて変化するしかなく、そのためには本校の進むべき道を今から学校全体で研究しなければならぬということ。建物（改築）に際してはそれなりに新しい類型（科）を考へて行かなくてはならないでしょうし、それに沿ったカリキュラム構成を作らなくてはなりません。ですから「新学習指導要領」の実

施までには3年以上あるのですが現実的にはそんなに先の話ではなく22年度にはそれなりの青写真を描いておかなければならないです。10年に一度の学習指導要領の改訂と建物の改修（改築）時期とがほぼ一致するタイミングであることを考えるとこの時期に新しい類型（科）をどうするか考えておくことはある意味必然のなせる業

雑感

元校長

小林一夫

私が中工を定年退職したのは平成十年三月三十一日です。午後十一時五十分、暗闇の中工正門前で最敬礼をし、私物を満載した車に乗り込んだのがつい昨日のことのように思い出されます。あれから十年・・・世の中十年一昔と云うけれど最近は五年一昔のような感じがします。

その典型的な例を携帯電話に見ることが出来ます。携帯の普及は先ず街の風物詩であった公衆電話ボックスをアット云う間に駆逐してしまいました。さらに、電話機+パソコン機能によって人々の生活形態を根本的に変えようとしています。

先日、所用のため札幌まで出かけてきましたが、家を出てから帰ってくるまで交通機関に関しては一度も現金や切符を手にかざすことがありませんでした。航空券の申し込みから料金支払いまで全て携帯のインターネットを利用して済ま

せたからです。購入したチケットはこれまた航空会社から携帯にコードとして送られてきました。搭乗の時はその携帯をかざすだけでOKなのです。数年前までは考えられなかった旅行形態です。

教育の世界も例外でなく、都立高校はここ十年の間に質・量とも大きく変化しました。特に量（学校数）の問題では大きな変化がありました。これは高校生の減少に伴う学校再編成によるもので具体的には、普通科10校→12校、工業科2校→3校、商業科10→12校になると云うものです。その後紆余曲折はありましたが十年後の今日、小石川工・王子工・世田谷工・港工・羽田工・江東工など、工業高校関係者にとって馴染みの深い学校が消えていきました。本当に淋しい限りです。

このように大きな学校変革の中で生き残った中工ですから是非特色ある教育課程を生かし今までの上に頑張っ欲しいと思っております。中工同窓会の皆様のご支援を心からお願ひ致します。

ラオスでの経験など

7C 中村真一

二〇〇九年三月二十三日（月）母校にて講演

二〇〇一年四月から二〇〇三年三月の間シニア海外ボランティアとして「ラオス」の首都の浄水場で水質管理について指導する貴重な体験をした。

ラオスは中国・ベトナム・カンボジア・タイ・ミャンマーの五ヶ国に囲まれ本州位の広さの国土に約五百万人が暮らしており、そこに東南アジアで最も長い「メコン川」が流れている。

首都ビエンチアンは国の中央部に位置しメコン川沿いにあり、タイと国境を接している。私が働いたチナイモ浄水場は日本の援助で建設され、首都で最大の施設である。しかし現在の施設能力では首都人口六十万人のうち約六割だけがその恩恵を受けているのが現状である。地方では水道普及率は更に低く、川や井戸から水を汲む姿が多く見られる。

ラオス国民の気質としては熱帯性気候と自然豊かな環境からか陽気で楽天的である。多くは仏教徒として信心深く、発展途上国にありがちな食糧不足のような深刻さは見られない。家庭燃料は薪や炭が使われ、洗濯機や自動車などの普及はまだ低い。道路の舗装率やバイクの普及などが進めば交通事故なども新たな問題となろう。

国家経済は日本始め多くの外国からの援助に依存しているが将来は経済的自立は可能と思われる。今年ラオスで初めて鉄道が開通し、十二月には第二十五回東南アジアスポーツ大会が首都で開催されるなど明るい話題もある。

後輩達へ三言

人生とは自分に課す実験とも言える。とにかくやってみる、やる前から、あれこれ言わない。その実験が成功するか否かの判断をするために学問（読書）をすることが必須である。今、勉強ができる環境に居られることに對して常に感謝と幸福感をもつてほしい。世界中には勉強以前に食べることさえ事欠く人が多くいるのだから。最後に「お彼岸の明け」の日に自分の存在と両親・先祖との関係に思いをいたすことは大いに意義あることであろう。

感謝

中野工業高校を卒業して

14CB 大石 巧造

中野工業高等学校の三年間はクラス替えもなく、担任の先生も岸先生でした。数学の先生で、温厚であると同時に鋭い感性をお持ちの方でした。私は、一度もほめられるようなことはなく、大変な迷惑ばかりかけていた生徒です。

三年生の夏には就職も決まりましたが、急きよ大学に行くことになり、企業との信頼関係を壊してしまいました。大学入試の調査書をお願いしたときも、「お前は、それどころではない。卒業できるか否かの問題だ。」と岸先生に怒られました。

そんな私が、どう間違ったか岸先生と同じ、都立高等学校の教師となっていたのです。あるとき、岸先生に教師になったことを伝えると、「やめなさい。」と忠告を受けました。そして、教頭になったときに報告をしたら、「まだ懲りないのか。」と一括されました。さすがに校長になったときには、岸先生がやめろと言う意味が理解できたので、報告できませんでした。しかし、都立高等学校を退職後も懲りることなく、私立日体荏原高等学校の校長をしています。岸先生の一貫したご指導は有難く感謝しています。

自分に適性の無い職業を貫くことは、大変な苦勞を伴い、多くの生徒・保護者に迷惑もかけてしまふことは、私自身が一番良くわかっていきます。岸先生が私に忠告し続ける理由は、そのことを指摘しているのでしょうか。

このように、中野工業高等学校

には人間味のある先生方が沢山おられました。授業中、寝ているか騒いでいる私に對し、毎時間「大石君」と質問してくれた英語の和泉先生。また、お名前は忘れたが、いきがって歩いている私に、「強そうだね。」とさとした先生。

大嫌いな工業化学科で勉強は出来ませんでした。有難い三年間でした。

遠く富士より母校を訪ねて

16CA 山崎 弘

今 私は静岡県富士市に住んでいます。中工を卒業して早四十五年、ある医薬品メーカーに就職して東京へ名古屋へ富士と転勤しました。富士で結婚し、子供も生まれ、そして孫も出来ました。幸いにも会社の同僚、上司と地域の人々にも恵まれ、大きな事故、トラブルもなく順調に定年退職を迎えることが出来ました。そこで昨年春、我がルーツ（少し大げさですが）を尋ねるべく富士市から東京へ一人旅を実施しました。小中学校は練馬区の上石神井小学校、上石神井中学校を卒業し中工に入学。関西の医薬品メーカーに就職し、武蔵小金井の東京研究所に配属されました。

ルーツを探る旅は、まず西武新宿

線の上石神井駅下車からスタートです。駅から生家（その後転居）は、街並みの大きな変化のため、探せど探せど分からずでした。次に通学した小、中学校に向かいま

我が母校も時代の要請と共に変わり、私も頭髪がなくなる等、大きく変わりましたが、中工は母校です。皆で大事に育てあげようではありませんか！

文化祭での全共闘による屋上のバリエード・右翼による北方領土の返還運動・全日制定時制合同文化祭等、目を閉じれば今でも鮮明に

じながら教育活動しています。

中野工業高校で

23MA 浦和 信行

16CAの皆さん、クラス会をやりそして母校に集まりませんか！

が忙しく楽しかった。

最初に、自己紹介をさせて下さい。私、1985年（昭和60年）

幸いにも小、中学校は直ぐに分かり、小学校は先生に案内して頂きました。ありふれた表現ですが大きかった校庭も小さく見え感慨深いものがありました。近くの中学校は、あいにく校門も閉まっており外から見るだけでした。日も傾き始め、上石神井駅に戻り、野方駅で下車し、いよいよ中工に向かいました。道に迷うことなく無事母校に到着です。中工は卒業以来です。校庭に入ると華やいだ雰囲気、きれいに整理整頓された玄関ロビー等にとまどいを覚えめました。なんと女性が多いことか。案内の先生にお尋ねしたら、全生徒の40%が女性との返事に驚く。私たちの通った当時とは随分違うなど感じました。

昭和44年4月に入学して47年3月に卒業。今年59歳になり60年前の学生時代のこと思い出します。当時、校舎は改築中で入学後教室を転々と変え一時、旧図書室が用になり広い空間で授業を受けたこと。事務室は2棟階の調理室に、職員室は3棟階の被服室のあたり。グランド・テニスコートも工事で2年ほど使えなくプールは卒業後に完成。体育館の2階（現在教官室）の広場で昼休み卓球をよくやった。工場棟は三科とも木造で機械科はノコギリ屋根の建物であった。

野工業高校に進学していなければいろいろな事に刺激されなかったと思います。今の私があるのは工業高校のおかげだと思います。私を育ててくれた時代・中野工業を

早いもので、卒業・入都（中野工業に勤務）してから25年が経ちました。あの頃の採用当時前後を振り返りますと、1984年（昭和59年）私が3年生の時です。食品の調理・食品加工が好きで興味があり、今後の進路を、食品会社に就職しようか？食品の学科のある大学・専門学校に進学しようか？等と考えながら学校生活を送っていた頃です。前年度、中野工業・食品工業科の実習教員として勤務されていた先輩がご退職され欠員のあるところに、当時ご

私は工業化学科に入学し有機化学、物理化学に大変興味をもったものでした（その割には成績は今一歩でしたがー）。生徒達も興味と関心のある学科を見つけ、より深く、広く勉学に励んでほしいと思います。

現在、中野工業で機械の授業・実習を教えています。先輩・卒業生の一人として少しでも生徒・後輩の役に立ちたいと努力しています。また、同窓会の諸先輩方の温かい応援（文化祭・体育祭への参加・各学期の講演会等）を日々感

在職の食品工業科の先生方から、

「食品加工が好きなら、このまま中野工業の食品工業科に残って仕事をしてみないか。」とお声を掛けて頂き、「自分が人にものを教える職業など」と少し迷いもあつたのですが、やはり好きな食品工業の道に進みたいと思ひまして、1985年(昭和60年)3月に入都試験を受け、同年4月1日付で中野工業に採用して頂きました。

現在の業務は、授業では主に食品製造実習・バイオ実習を担当しております。その他の業務としては、実習棟・食品工場設備の維持管理、ボイラー取扱責任者、第一種圧力容器取扱作業主任者(レトルト殺菌装置)、廃水処理施設・水質管理責任者、食品衛生責任者、生産品の管理等を中心とした仕事をさせて頂いております。部活動は、女子ソフトボール部、食品加工部の顧問をしております。

私なりに感じている最近の学校の現状ですが、生徒に関しては、中野工業に限った事ではないのですがやはり学力の低下です。その中でも一番感じるのは、国語力の低下です。先生方と敬語で会話ができないのです。先日も、1年生の生徒でした。こちらの指示に対して「うん、わかった。」と数回を返事されたので、「何だ、その

口のきき方は。」と注意したところ、「うるせえ。」と反抗されました。最近の子供達は、小さい頃から親子さんに、そのような言葉遣いの教育をあまり受けていないようです。教員も含めた学校全体の事に関しては、授業数も増加しましたし、不必要とも思える細かい書類も増えました。毎日、先生方が忙しく、学校全体がギスギスしているように感じます。

次に、この25年間で特に印象に残っている事を幾つか。私が中野工業に着任したその年が中野工業の40周年記念の年だったとことです。当校食品工業科卒業の大先輩である、落語家の林家木久蔵(現在の林家木久翁)師匠が記念式典の講演会のゲストで来校されて、すばらしい講演をして頂き、たいへん楽しい一時を過ごしたことを覚えています。もう一つは、25歳の頃から顧問となり、コーチ、監督をさせて頂いた女子ソフトボール部の事です。人数が揃っていた当時、約10年間は、土曜・日曜も関係なく、ソフトボール漬けの毎日でした。肉体的にも精神的にもたいへんでしたが、その当時の部員達の「少しでもソフトボールが上手になりたい」という強い志に、こちらが感心するばかりで

した。ベンチで采配を揮う事が私自身も非常に楽しく遣り甲斐があり、ソフトボール部の活動にのめり込みました。現在は、ソフトボールの人数がないようで、なかなか多人数に入部してもらえません。また人数が揃った時には、一生懸命練習をして生徒達を率いて公式大会に出場したい。というのが私の仕事上での夢の1つになっています。

次に、比較的最近の事なのですが、中野工業が、2005年のゲリラ豪雨の被害に遭った事です。その当日の朝、出勤してみると、電気系統が全て麻痺してました。時間と共に状況が解ってくると、それは学校のみならず、野方地域全域だったのです。校内も浸水した教室が多数あり、特に妙正寺川に隣接し、他の施設より低い位置にある機械科の新実習棟の被害は、それは甚大な物でした。私の所属する食品工業類型の実習棟・食品工場も、浸水するまであと5センチのところまで水位が達しました。が、ぎりぎりのところで危うく難を逃れました。妙正寺川の護岸の一部も決壊し、それは酷いものでした。私は、今まで敷地内に河川の走る学校の在り方は如何な物かと、学校の移転も含めた学校の改

築を強く進言しておりました。それは、いつかこのような事があるのではないかと思っていたからです。2005年のゲリラ豪雨は、やはり学校がこのままの在り方ではいけないという事と、改めて自然災害の恐ろしさを認識させてくれた衝撃的な出来事でした。

次に、これに関連した学校の改築の事です。近いうちに学校の改築をする計画があるようです。施設の老朽化が著しい当校にとつては非常に喜ばしい話です。もし、このまま現在の敷地で学校を改築するのであれば、河川に対応した施設にして頂きたいと強く切望しています。が、その一方では、もしかすると中野工業が廃校になり、その敷地を利用して遊水池を兼ねた公園になるのではないか。などという嫌な噂も時折耳にします。このような時に中野工業高校の存続に欠かせないのは、同窓生の皆様のご協力とご支援です。これからも、中野工業をよろしくお願い致します。

私は、この中野工業に長年勤務する事が出来て、本当に良かったと思っております。それは、やはりここで親しくなった同僚、卒業生達と出会えたからです。それが私の大きな宝物です。時折、学校を

訪ねて来てくれたり、連絡をもらって久しぶりに再会して話をした時などは、たいへん楽しく至福の一時です。

最後になりますが、長年に亘り任に就かれている、同窓会会長様に感謝と御礼を申し上げ、この原稿を終えようと思います。ありがとうございました。

母校への思い出と

今後の発展祈願に寄せて

42CA 近藤 英幸

時が過ぎるのは早いもので私も母校・中野工業高校を卒業してもうすぐ二十年となるうとしております。いまでは恩師の先生方もご退官、ご転出されてしまい、また「工業化学科」の名称もなくなり寂しい限りです。しかし、現在も仕事で「化学」に携わる私にとつて母校はとて大切な原点の地であります。

在学中は生徒会役員活動や体育際応援団、文化祭で配布する水飴製造、修学旅行に放課後の友達とのスポーツなどたくさん楽しい思い出がありました。一方、私の在学当時はバブル全盛期でもあり就職活動もゆとりを持って行えたと記憶しております。

しかし、現在の社会は不況によ

る就職難、少子化や大学進学率の増加などにより工業高校も大変厳しい状況となつてしまつているのではないかと察しております。

現在は推薦制度の充実などで工業高校から大学に進学する道も開けておりますが、実学・専門科目が多い工業高校生はハンデが大きく、大学での講義に苦勞してしまふのも実情かと思ひます。実際、私も会社に勤めつつ夜間大学（工学部）に進学しましたが、普通高校では学んでいる物理、数学などに戸惑い、最初は非常に苦勞しました。

ただし、専門科目である化学に關しては母校で学んだ事が仕事、大学時代の勉学でも私の基礎となつております。進学した人にとつても、また社会に出てからも（取得した資格や課外活動、大切な友達との付き合いも含めて）3年間の母校での生活で得たものが必ずや活かされると思つております。

私も大学卒業時に出身である「工業」の就職免許状を取得することができ母校、恩師の先生方に対する一つの恩返しの一助となつたのかな、と思つていますが、今後とも同窓生の1人として社会への貢献を通じて母校を支え、更なる中野工業高校の発展を祈願したい

と思つております。

卒業生の歩み

3F 海野 清

生徒達に 今が一番大切な時期です。体力を付け 勉強に励んで下さい。

先生方へ 生徒達の相談は乗る様のお願ひ に心がけて下さい

多忙でしようが前向きに指導をお願いします

卒業後の歩み

昭和31年 東京農大農芸学科卒業

昭和31年 石井食品(株)研究室に入社

昭和41年 船橋食品(株)に入社、パンの製造と營業に従事

昭和45年 小玉株式会社入社
糖尿病薬インスリン、抗テン

カン薬、頭痛薬、抗凝固剤へ

を主体に病院に宣伝する
平成7年 定年退職

近況

毎朝1時間のウォーキングを約20年間継続して実施
(一日一万歩目標)

月曜日は生涯スポーツ健康科学研センタージムにトレーナーとして参加、多くのシルバーの人々の指導をしています。火木は東大生涯

スポーツ健康科学研センターに行き体力トレーニングに励んでおります。日曜日は障害福祉センターにボランティアとして障害者の手助けに行つて居ります。夫婦とも認知症にならない様に頑張つています。

卒業生の歩み

10MA 渡辺修也

生徒たちへ

いま勉強していることに自信を持つこと。将来どのような職業に就いても今やることが基礎となつて大なり小なり役立ちます。

そしてできるだけ早い時期に自分のほんとうにやってみたい事を見つけられるよう、いろいろなことに挑戦してほしい。

先生方へ

多感な成長過程の年代の生徒たちを相手に大変な役割を負つていると思ひますが、熱血精神で対応してもらいたい。また、時には生徒の目線で一緒に考え、相談に乗つてあげてほしいと思ひます。

卒業後の歩み

昭和34年4月 日本電信電話公社入社

都内の電話局にて局外設備の保

守に携わる

昭和42年4月 早稲田大学産
業技術専修学校産業経営科入学
(同44年卒業)

昭和60年4月 電電公社から
日本電信電話株式会社(NTT)に
民営化(国の政策)体制が変わ
るが携わる業務は変わりなし。
ただし民間会社になったこと
でお客様への意識変革が求めら
れた

昭和62年3月 設備部門から
企画部門へ配置換え

平成 3年1月 東京の局番4
ケタ化 前年の大晦日から元旦
にかけて局内交換機にて切替作
業に立ち会う

平成11年7月 NTTの再編によ
り会社の分社化(NTT東日本、
NTT西日本、NTTコミュニケーシ
ョンズ)

平成13年3月 NTT東日本会社
定年退職

近況

悠々自適の生活設計を描いてい
たがままならず、現在はボラン
ティア待遇で東京都綱引連盟の
理事・事務局長として種々の大
会運営に携わっている。また男
の料理や健康体操のクラブに参
加したり、7人の男グループで
群馬県で古民家を持ち農作業を

楽しんでる。

昨年は地球一周の船旅で南極海
域まで行った。

野方にてクラス会

14CA 金谷昶明

私共14期工業化学科A組のク
ラス会では卒業以来47年ぶりの
再会者も居るので、卒業した学校
がどう変化しているのかも知りた
いと云う要望を取り入れて学校側
の山田副校長先生にお願いして平
日の開校日に見学させて頂ける運
びに成りました。

8月5日(水)の大変よく晴れ
わたった午後5時に学校正門前に集
合して約三十分見学させて戴きま
した。体育館や河川がしっかり護
岸されていたり女子生徒さんが多
く在籍しているのに驚きました。

懐かしい野方の駅近くの居酒屋
で旧交を温め先生も含めて時間の
経つのも忘れて話しの輪が弾み楽
しい一日を先生を囲んで十八名参
加のクラス会を送る事ができまし
た。



同窓会講演会及び

その他について

同窓会では、母校六十周年を契
機として同窓生による講演会を活
動の柱の一つとして、年二回開催
する事になりました。昨年十二月
十八日に初講演会を開催いたしま
した、講師として、第十期機械科

卒の池田和司(弁護士、弁理士)
さんが快く引き受けてくださり、
ご本人の卒業以来の歩みと、裁判
員制度について話されました。こ
の制度は本年五月から実施され、
国民は等しく参加する義務があり
ます。

第二回目は本年三月に第七期工
業化学科卒の中村真一さんが、シ
ニア海外協力隊として「ラオス」
の首都の浄水場で水質管理につい
て指導してきたことを話されまし
た。

第三回目は十二月二十四日に第
十八期工業化学科卒の左巻健男(現
法政大学教授)さんが「0からの旅
立ち」と題を定め話されます。

以後の講師は第十期機械科・A
氏、第十四期食品工業科・B氏、
第十四期工業化学科・C氏等を予
定してます(本人の了解を得ていま
せんのでお名前は公表できません)。

この会報の投稿者で23M・浦和
信行さん、36F・中村昭夫さん、
投稿はされてませんが32C・小
口昭仁さん、41C・鈴木勝典さ
んは母校で教鞭を取っておられま
す。

平成21年度総会資料

平成20年度事業報告

概要

活動目標であった

1. 同窓会会報の発行。

11月3日に発行する事が出来た。

2. 行事（催し事）。

- (1) 平成20年4月8日 母校入学式 3名出席 於:母校体育館
- (2) 4月27日 役員会 14名出席 於:母校音楽室
新会員歓迎会及び同窓会総会資料の発送業務(新会員5名)
- (3) 6月1日 20年度同窓会総会 30名出席 於:母校音楽室
- (4) 7月20日 役員会 9名出席 於:野方地域センター
会報発行の検討、その他
- (5) 9月21日 役員会 9名出席 於:野方地域センター
会報発行の検討、その他
- (6) 10月19日 役員会 6名出席 於:母校被服室
会報発行の検討、その他
- (7) 11月3日 中工祭(卒業生の歩み出展) 於:母校
- (8) 12月18日 講演会 於:母校体育館
演題 裁判員制度について 10期機械科 池田和司様
- (9) 平成21年2月1日 役員会 10名出席(細田副校長、浦和先生)
- (10) 2月14日 新春交歓会 19名出席 於:グラント・パレスビル
- (11) 3月10日 母校卒業式 3名出席 於:母校体育館
- (12) 3月23日 健全育成関わる講演会 於:母校体育館
第一部 7期工業化学科 中村真一様
卒業後の歩みと海外技術協力隊の活動に参加して
第二部 野方警察署少年係 三浦節郎様
管内の非行実態について
警視庁生活安全部 原俊明様
少年の健全育成について

平成20年度収支決算書

収入の部

入会金	51000.	3000 x 17名
年会費	410000.	2000 x 205名
寄附金	203000.	
寄附金	50000.	3C. 新井様
臨時会費	246000.	総会、役員会、新春交歓会
預金利息	615.	
前期繰越金	570737.	
合計	1531352.	

支出の部

行事費	187517.	中工祭、講演会、新春交歓会
会議費	178581.	総会、役員会
通信費	285170.	
交通費	5790.	
印刷費	164138.	会報印刷他
事務用品費	6138.	
卒業記念品代	37800.	
部活動助成費	50000.	
慶弔費	10000.	3C. 新井様
振込み手数料	27480.	
小計	952614.	
次期繰越金	578738.	内訳 三菱東京UFJ 233642.
合計	1531352.	郵便貯金 330607. 現金 14489.

平成21年3月31日 会計 中村 真一 会計 島田 勝利

収支決算について関係書類を監査した結果、適正に処理されている事を認めます。

平成21年3月31日 会計監査 西村 満郎 会計監査 江野下 健二

平成21年度事業計画

基本計画

前年度の実行の事業計画を推進したい。

事業計画

1. 同窓会会員の親睦を一層深めるためおおいにアピールをする。
2. 同窓会会報の発行。
3. 行事（催し事）。
 - (1) 母校入学式(4月7日)
 - (2) 新会員歓迎会(5月10日)
 - (3) 21年度定時総会(6月7日)
 - (4) 母校体育祭(9月下旬)
 - (5) 母校文化祭(中工祭)(11月3日)卒業生の歩み出展
 - (6) 講演会(12月22日)
 - (7) 新春交歓会(新年会)(2月上旬)
 - (8) 母校卒業式(3月上旬)
 - (9) 講演会(3月予定を6月開催)
 - (10) 役員会の随時開催(2ヶ月に1回程度)

平成21年度収支予算案

収入の部

年会費	400000.
寄附金	200000.
入会金	100000.
前期繰越金	578738.
合計	1278738.

支出の部

行事費	190000.	中工祭、新春交歓会、その他
会議費	180000.	総会、役員会、新会員歓迎会、その他
通信費	300000.	各種案内、その他
印刷費	170000.	各種案内状印刷
事務用品費	10000.	
卒業記念品代	50000.	
部活動助成費	50000.	
交際費	20000.	
慶弔費	20000.	
振込み手数料	30000.	
予備費	258738.	
合計	1278738.	